

日本海海戦記念碑

大峰山 (114.5 m) の頂上にあるこの記念碑は、日露戦争 (1904～1905 年) における日本海軍の勝利を記念したものです。アジアにおける帝国の野望から戦争が始まり、中国国内の戦略的な領土をめぐって双方が争いました。日本海海戦は 1905 年 5 月 27 日、福津沖の対馬海峡で起きました。日本の艦隊を率いていたのは、東郷平八郎 (1848～1934 年) 海軍大将でした。この決定的な戦いの間に、ロシア艦隊の 2/3 は破壊され、日露戦争は終結することになりました。

この記念碑は、渡半島の最も高いところに位置しており、東郷が亡くなった 1934 年に建立されました。この記念碑は、日本艦隊の旗艦だった戦艦三笠の前甲板と主砲にやや似ています。記念碑には 2 つの銅板があり、一つは東郷平八郎提督が描かれ、もう一つは東郷が艦隊の出撃に合わせて三笠に掲揚した海上信号旗を表したものです。この旗は、「各員一層奮励努力セヨ」という内容を伝えるものでした。この記念碑は、元は「日露戦争勝利記念碑」と名づけられる予定でした。しかしこの地域に伝わる話では、東郷が日露双方の死者を悲しんで、「勝利」という言葉に反対したそうです。

東郷大将はその戦略能力により、「日本のネルソン卿」と呼ばれることもありました。彼はロンドンの王立海軍兵学校の生徒だった時に、ネルソン卿へ憧れを抱くようになりました。戦いにおいて信号旗を掲げるという東郷の決定は、それより 100 年前にトラファルガーの海戦でネルソンが旗艦の HMS Victory に掲げた信号旗から影響を受けたのかもしれません。

この記念碑の後ろには、戦いが行われた対馬海峡を望む小さな展望所があります。铸铁製の地図は戦闘の主要な交戦を示しています。